天正８年（1580）から始まる羽柴秀吉による鳥取城攻めは、翌９年10月25日、毛利方から派遣されていた吉川経家の切腹という壮絶な最期をもって終焉しました。経家は当時35歳という若さで、まだ幼い子どもたちが数人いました。

経家が鳥取城の守備を命じられたのは天正９年正月14日のことです。翌２月26日には13歳の長男亀寿丸に家督を譲り、この日のうちに故郷の石見国福光城を出発しています。決死の覚悟で鳥取に向かったのです。鳥取城に着いたのは３月18日のことです。経家は最初から籠城戦を想定していたようです。

一方、羽柴秀吉が鳥取城を包囲したのは７月12日のことです。織田信長が鳥取にいる秀吉の本陣に送った手紙によれば、およそ１カ月後の８月中旬には鳥取城内で餓死者が出ていたようです。経家はさらに２カ月の籠城を続け、10月中旬には経家の降伏にかかわる条件が秀吉との間で確認されたとみられ、命日となる10月25日を迎えるのです。経家は子どもたちに次のような遺書（写し）を残しています。

鳥取市・岩国市姉妹都市締結10周年記念展

吉川経家、最期の手紙

「天正九年鳥取城をめぐる戦い」

13日（日）まで開催中

おうちだに画報

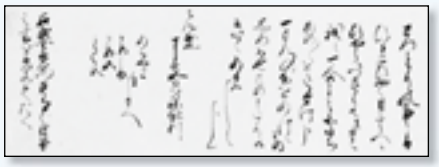
とつとりの事、よる
ひる二ひやく日こらへ候。
ひやう二つきはて候まゝ、
我ら一人御ようにたち、
おのおのをたすけ申、
一もんのなをあけ候。その
しあハせものかたり御
きゝあるへく候。
かしこ。
てん正九
十月廿五日　つね家判
あちやこ
かめしゆ　申給へ
かめ五
とく五

＜現代語訳＞

鳥取城に入ってから200日がたち、秀吉が攻め込んできてからは籠城してこらえてきたがすでに食糧は尽きてしまった。この経家が一人切腹をして籠城している皆を助け一門の名誉としよう。子どもたちには、その名誉となる物語を聞いてほしい。

この遺書や経家の兜・采配などの遺品は11月13日（日）まで開催している「天正九年鳥取城をめぐる戦い」で公開しています。是非この機会にご覧ください。

（鳥取市歴史博物館　伊藤康晴）

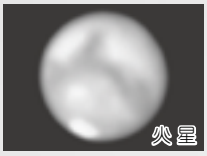


吉川経家書状　写

■問い合わせ先　やまびこ館　上町88
TEL（0857）23-2140

SAJI Astro Park

火星が接近！



夜８時ごろ、東の空に赤みがかった明るい星が見えています。これは地球に接近している火星です。しばらくは見やすい時期が続きます。

2003年の夏、「火星が６万年ぶりの大接近」と話題になりました。２年しかたっていない今年も、接近とはどういうことだ！と思われることでしょう。

火星は太陽のまわりを１年10カ月半かけて、地球は１年かけて回っています。それぞれのペースで太陽のまわりを回ると、地球と火星はおよそ２年２カ月ごとに接近を繰り返します。火星の通り道は少しゆがんでいるため、5600万km くらいまで近づく「大接近」から、１億km強までしか近づかない「小接近」まで、接近距離がいろいろ変化します。今回の接近距離は6942万kmで「中接近」となります。

火星の赤い色は、赤茶けた土の色です。今から40億年以上前、火星は水蒸気を含んだ大気におおわれたと考えられています。そして、一時的には湖のようなところもあったのではと言われています。しかし、太陽からの紫外線により水が水素と酸素に分解されました。火星は地球の半分くらいの大きさしかないため重力が弱く、軽い水素は宇宙へと逃げてしまいました。そして、残った酸素は土の中の鉄と結びついてサビとなり、火星の土を赤茶けた色に変えてしまったと言われてのです。こんな物語を思い浮かべながら、ぜひ火星を眺めてみてください。

佐治天文台長　香西洋樹の「空の向こうに見えるもの」

Vol.4　アンドロメダと奇稲田姫

野分が木枯らしと名前を変えると、寒い北風が吹き抜け、夜空には多くの星々が震えながら瞬いています。屋外に出て、夜空を見上げてみましょう。そこに輝くのは、ギリシャ神話に登場する「エチオピアの王家の星座」たちです。ケフェウス王と王妃カシオペア。そして王女のアンドロメダと勇者ペルセウス。ペルセウスに退治された怪け鯨。佐治天文台のプラネタリウムでおなじみの星座たちですね。遥か昔の物語が、多くのロマンを語りかけてくれます。このアンドロメダ姫の物語によく似ているのが、日本に伝えられる古事記の「八岐の大蛇退治」の物語。ペルセウスと須佐男命、アンドロメダ姫と奇稲田姫、ケフェウスとカシオペアには足名椎と手名椎。奇妙な一致をみることになりますね。姫君と勇者の物語は、どうやら世界共通のお話なのかもしれません。ところで、金星の表面のクレーターには、私の提案で「奇稲田姫」と名付けられたものがあります。美の女神、金星にふさわしい名前だと思いませんか。

見上げてごらん

StarWorld